



やぐもだい

令和 7 年 4 月 7 日
調布市立八雲台小学校
校 長 石川 淳
URL: <http://www.chofuschools.jp/yagumodai-sho>



は じ め ま し て

校長 石川 淳

八雲台小学校に勤務できることになりました。校長の石川淳と申します。皆様のご信頼に応える学校づくりに邁進してまいります。諸先輩が積み上げた伝統を尊重し活動を進展させます。

現代は「不確実性の時代」と言われています。未来の予測が困難な状況であることは、我々大人の中では理解し得るものですが、未来の社会を中心となって牽引していくのは、10年後20年後の今の子供たちです。10～20年後の社会で少なくとも言えるのは、人間と同じような認知能力を備え、瞬時のデータ管理が行えるAIとの共生社会になるということでしょう。働き方も現在とは大きく変わっている筈です。隣の席に外国人がいるのは勿論、遠方の同僚はオンラインや仮想空間でアバターを介してミーティングに参加し、コミュニケーションも言語に加えて非言語の部分も同時通訳され、AI搭載のロボットも隣で一緒に知恵を出しているかも知れません。

そのような時代を生きていく現子供たちに必要な資質・能力とは何でしょうか。私は、バックボーンも価値観も異なる相手と互いの違いを認め合い、受け入れ合いながら、正解のない解に向かう学びの姿勢と考えます。そのために、本校の教育目標【思いやりのある子ども よく考える子ども 健康な子ども】を受け、目指す学校像を「一人一人の子どもが 安心して通うことができる学校」として学習をはじめ行事等も活発に活動してまいります。子どもたち一人一人が持てる知識や技能をもとに、他者と協働して課題解決に向かい、未知の事を多角的に深く学んでいく楽しさを味わわせたく、教職員の創意と工夫を結集してまいります。

～ 子供の発達段階の特徴と重視すべき課題 ～

子供は一人一人異なる資質や特性があり、その成長には個人差があります。しかし、子供の発達の道筋やその順序性では、共通して見取れる傾向もあります。発達段階に相應しい生活や活動を経験することが重要です。



小学生段階の発達を大まかな括りでみてみますと、入学の6歳から9歳くらいの時期の子供は、幼児期の特徴を残しながらも「保護者や先生が『いけない』と言うことはしてはならない」と、大人の言うことを守る中で、善悪についての理解と判断をくり返します。人として行ってはならないことについての経験を積み重ね、集団や社会（学校・学級）のルールを守ろうとする態度など、善悪の判断や規範意識の基礎の形成が、この時期には特に大切です。

10歳以降の学年では、物事をある程度事の順序・他者のかかわりを加えて認識することができるようになります。知的な活動ではより分化した探究が可能となり、他者との関係でも相手との間に社会的な距離感をもって客観的な分析ができるようになります。一方で、発達の個人差が顕著になります。他者と比較できてしまえるが故に自分自身への肯定感が揺らぎやすくなる時期でもあります（いわゆる「10歳の壁」）。集団での役割意識、責任意識、自他を尊重する意識や思いやりの育成が、この時期には大切です。

教員は子供の頂上（人格の完成）を目指して接しますが、そこに至る道筋は無数にあり、予想通りに進むことはほぼないと認識しています。保護者の方は、過去・現在・未来に渡って我が子を育て見守るその子のプロフェッショナルです。教員は子供たちとの一期一会を大切に集団生活で力をつけさせ、発揮させる専門職です。両者が手を携えれば、一人一人の子供が頂上への道を探す力強い支援となると信じています。